

既存排水機場等の効果 揖保川水系揖保川 [馬路川排水機場]

○馬路川排水機場では、平成29年10月22日20時～23日8時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量36.6万m³の内水**を排出。

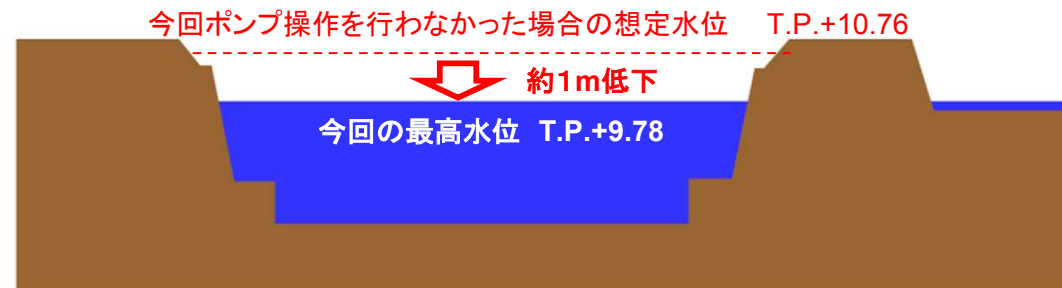
■馬路川排水機場の位置・全景



■馬路川の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**総排水量36.6万m³の内水**を排出し、馬路川の水位が**約1.0m低下**、浸水面積が**約34.5ha**。

●A-A'断面



■馬路川排水機場の役割

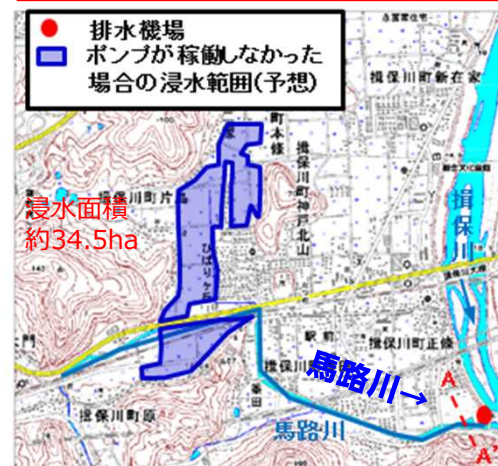
馬路川の内水被害が頻発していたことから内水排除の目的で昭和56年度に5.0m³/sのポンプ1台が設置されて稼働を開始しました。

その後、昭和63年度には5.0m³/sのポンプ1台を増設、平成17年度には、既設ポンプ2台を6.5m³/sに機能向上し、更に1.5m³/sのポンプ2台が増設され、**合計排水能力16.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。

昭和56年度から稼働している馬路川排水機場は、完成からすでに**30年以上経過**しています。

馬路川排水機場は、揖保川洪水の馬路川への逆流を防止するとともに、馬路川の流水を揖保川へ排水することで、揖保川町の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが無かった場合の浸水被害



排水量 36.6万m³

25mプール 約1,017杯分



※速報値であり、今後変わる場合があります。